

くすり一口メモ

悪性症候群の副作用のある薬剤

悪性症候群は原因不明の発熱，振戦・筋強剛，意識障害等の錐体外路症状と発汗・尿閉・頻脈等の自律神経症状を呈する死亡率の高い副作用です。発現頻度は0.02～3.23%，死亡率は10%以下とされています。近年，治療法の進歩により，死亡率は極めて低くなってきています。発生時期別分類では48時間以内に発症する突発型が19.7%，3～13日以内に発症する早発型が45.3%，14日以降に発症する遅発型が22.7%，不明が12.3%となっています。発症機序は，黒質線条体 - 中脳辺縁系 - 視床下部のドーパミン作動性ニューロンにおけるドーパミン刺激の突然の遮断が関与すると考えられています。

添付文書上に悪性症候群の副作用が明記された薬剤をまとめてみました。

精神安定剤及び統合失調治療剤	フェノチアジン系	レボプロマジン(ヒルナミン)，チオリダジン(メレルリ) プロペリシアジン(ニューレブチル)，ペルフェナジン(ビーゼットシー) クオルプロマジン(コントミン)，フルフェナジン(フルメジン) プロクローペラジン(ノバミン)，マレイン酸トリフロペラジン(トリフロペラジン)
	ブチロフェノン系	チミペロン(トロペロン)，ハロペリドール(セレネース) プロムベリドール(インプロメン)，デカン酸ハロペリドール(ハロマンズ)
	その他	リスペリドン(リスパダール)，クエチアピン(セロクエル)，ネモナブリド(エミレース) ペロスピロン水和物(ルーラン)，オランザピン(ジプレキサ)，ピモジド(オーラップ)， オキシペルチン(ホーリット)，モサプラミン(クレミン)，スルトプリド(バルネチール) チアプリド(グラマリール)，ゾテピン(ロドピン)，スルピリド(ドグマチール) クロカプラミン(クロフェクトン)，エチゾラム(デパス)，カルピプラミン(デフェクトン) クオルプロマジン・プロメタジン配合剤(ベゲタミン)
抗パーキンソン剤	レボドーパ製剤	レボドーパ(ドパール)，レボドーパ配合剤(メネシッド) レボドーパ・塩酸ベンセラジド(ネオドパゾール)
	ドーパミン受容体薬	メシル酸ベルゴリド(ベルマックス)，カベルゴリン(カバサル) タリペキソール(ドミン)，プロモクリプチン(パーロデル) プラミペキソール水和物(ピ・シフロール)
	抗コリン薬	トリヘキシフェニジル(アーテン)，プロフェナミン(パーキン)，マザチコール(ペントナ) メチキセン(コリンホール)，ピペリデン(アキネトン)，ピロヘプチン(トリモール)
	その他	セレギリン(エフピー)，アマンタジン(シンメトレル)，ドロキシドパ(ドプス)
抗うつ薬	モノアミン再取り込み阻害薬	ノルトリプチン(ノリトレン)，アモキサピン(アモキサン) トラゾドン(レスリン)，イミプラミン(トフラニール) アミトリプチン(トリプタノール)，トリミプラミン(スルモンチール) クロミプラミン(アナフラニール)，ロフェプラミン(アンブリット) ドスレピン(プロチアデン)，マプロチリン(ルジオミール)
	SSRI薬	マレイン酸フルボキサミン(デプロメール)，パロキセチン水和物(パキシル)
	SNRI薬	ミルナシプラン(トレドミン)
	その他	マレイン酸セチプチリン(テシブール)，ミアンセリン(テトラミド)
その他		ドロペリドール・クエン酸フェンタニル(タラモナール)，ドネベジル(アリセプト) メトクロプラミド(プリンペラン)，ミダゾラム(ドルミカム)，フルニトラゼパム(ロヒプノール) タルチレリン水和物(セレジスト)，カルバマゼピン(テグレートール)，プロメタジン(ヒベルナ) メチルフェニデート(リタリン)，ドロペリドール(ドロレプタン)，ダントロレンナトリウム(ダントリウム) 炭酸リチウム(リーマス)

(鹿児島市医師会病院薬剤部 野間口 寛)